

カフコデ N 配合錠

【この薬は？】

販売名	カフコデ N 配合錠 Coughcode-N Combination Tablets
一般名	ジプロフィリン (Diprophylline) ジヒドロコデインリン酸塩 (Dihydrocodeine Phosphate) dl-メチルエフェドリン塩酸塩 (dl-Methylephedrine Hydrochloride) ジフェンヒドラミンサリチル酸塩 (Diphenhydramine Salicylate) アセトアミノフェン (Acetaminophen) ブロモバレリル尿素 (Bromovalerylurea)
含有量 (1錠中)	ジプロフィリン 20mg ジヒドロコデインリン酸塩 2.5mg dl-メチルエフェドリン塩酸塩 5mg ジフェンヒドラミンサリチル酸塩 3mg アセトアミノフェン 100mg ブロモバレリル尿素 60mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、鎮咳・鎮痛・解熱剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、咳を鎮める作用や熱を下げる作用があります。また、痛みの感受性を低下させて痛みをやわらげます。

- ・次の目的で処方されます。

**かぜ症候群における鎮咳、鎮痛、解熱
気管支炎における鎮咳**

- ・この薬は、自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると本来の効果が得られないことがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬に含まれるアセトアミノフェンにより、重篤な肝障害（体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、意識の低下）があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合はただちに医師に連絡してください。
- アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）との併用により、アセトアミノフェンが過量になり重篤な肝障害があらわれることがあるので、使用している場合は、医師に伝えてください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にカフコデN配合錠に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・重篤な呼吸抑制のある人
 - ・気管支喘息の発作をおこしている人
 - ・アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤などにより誘発される喘息発作）のある人または過去にアスピリン喘息があった人
 - ・消化性潰瘍のある人
 - ・重篤な肝障害のある人
 - ・重篤な腎障害のある人
 - ・重篤な血液の異常のある人
 - ・重篤な心機能不全のある人
 - ・閉塞隅角緑内障の人
 - ・前立腺肥大などの下部尿路に閉塞性疾患のある人
 - ・カテコールアミン製剤（アドレナリン、イソプロテレノールなど）を使用している人
 - ・12歳未満の小児
 - ・18歳未満の肥満症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群または重篤な肺疾患のある人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・脳に器質的障害のある人
 - ・気管支喘息のある人
 - ・代謝性アシドーシス（重篤な代謝の異常により、血液が酸性に傾くこと）のある人
 - ・副腎皮質機能低下症のある人
 - ・てんかんの人
 - ・心機能異常のある人
 - ・呼吸機能障害のある人
 - ・高血圧症の人
 - ・過去に消化性潰瘍のあった人

- ・肝障害がある人、または過去に肝障害があった人
- ・腎障害がある人、または過去に腎障害があった人
- ・血液に異常のある人、または過去に血液に異常があった人
- ・出血しやすい人
- ・甲状腺機能に異常がある人
- ・開放隅角緑内障の人
- ・過去に過敏症があった人
- ・衰弱している人
- ・毎日多量に飲酒している人
- ・高齢の人
- ・12歳以上の小児
- ・絶食・栄養状態が悪い・摂食障害などによるグルタチオン欠乏の人、脱水症状のある人

○この薬には併用してはいけない薬 [カテコールアミン製剤 (アドレナリン (ボスミン)、イソプロテレノール (プロタノールなど) など)] や、併用を注意すべき薬や飲食物があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

1回量	2錠
飲む回数	1日3回

12歳以上の小児には、年齢に応じて投与量が調節されます。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●効果が不十分な場合の対応

この薬の効果が不十分な場合は、使用が中止されます。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついたときに、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

○アセトアミノフェン

- ・肝臓・腎臓・心筋の壊死（初期症状：悪心（吐き気）、嘔吐（おうと）、発汗、全身倦怠感（けんたいかん）など）およびメトヘモグロビン血症（手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる、体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ）があらわれることがありますので、ただちに受診してください。
- ・過量使用の治療薬としてアセチルシステインがあります。

○ジヒドロコデインリン酸塩

- ・呼吸抑制（呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる）、意識不明、痙攣（けいれん）（顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が

硬直しガクガクと震える)、錯乱(注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない)、血圧低下(脱力感、立ちくらみ、めまい、ふらつき、意識の消失)、重篤な脱力感、重篤なめまい、嗜眠(刺激がないと眠ってしまう)、心拍数の減少、神経過敏、不安、縮瞳(瞳孔が点のように小さくなる)、皮膚冷感などがあらわれることがありますので、使用を中止し、ただちに受診してください。

- ・過量使用の治療薬として拮抗剤(ナロキソン、レバロルフアンなど)がありません。

○プロモバレリル尿素

- ・中枢神経症状(四肢の不全麻痺、深部反射消失、呼吸抑制など)が主なものであり、覚せい後に幻視(実際にはない物が見える)、全身痙攣発作(顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える)、神経炎(指先のしびれ、筋力の低下)、神経痛などがあらわれることがありますので、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・12歳以上の小児が使用する場合は、家族の方も正しい使用方法を理解して監督してください。
- ・眠気があらわれることがあるので、自動車運転などの危険を伴う機械の操作はしないでください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の人は、授乳を避けてください。
- ・アルコールを含む飲食物は、この薬に影響しますので、控えてください。
- ・カフェインを多く含むコーヒーや紅茶などを多飲すると、副作用があらわれることがあります。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
中毒性表皮壊死融解症(TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう(テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ





重大な副作用	主な自覚症状
皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほんせいほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
顆粒球減少 かりゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
喘息発作の誘発 ぜんそくほっさのゆうはつ	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息苦しい
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、突然の高熱、寒気、体がかゆくなる、急激に体重が増える、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、むくみ
頭部	めまい、意識の消失、急な意識の低下
顔面	顔面蒼白（そうはく）
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる
口や喉	喉のかゆみ、唇や口内のただれ、喉の痛み、血を吐く、吐き気、咳、嘔吐
胸部	動悸、息苦しい、息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息切れ、呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
腹部	お腹が張る、食欲不振、腹痛
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み

部位	自覚症状
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、皮膚が黄色くなる、発疹
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、下痢

【この薬の形は？】

PTP シート			
形状	 表面	 裏面	 側面
直径	9.7mm		
厚さ	4.4mm		
重さ	269mg		
色	白色		
剤形	円形 フィルムコーティング錠		
識別コード	M207		

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ジプロフィリン ジヒドロコデインリン酸塩 dl-メチルエフェドリン塩酸塩 ジフェンヒドラミンサリチル酸塩 アセトアミノフェン ブロモバレリル尿素
添加物	トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター

患者さん・一般の方：0120-965-485

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

（土日祝祭日を除く）